

研究課題(テーマ)		ため池改修事業と生物多様性保全の両立を図る手法の開発	
研究者	所属学科等	職	氏名
代表者	教養教育センター	准教授	鈴木 浩司
研究結果の概要			
<p>氷見市にある大浦大池(周囲約800m)は江戸時代に作られた農業用ため池である。周囲は里山の雑木林に囲まれた自然豊かな場所である。古くからこの池には水生植物アサザ(写真左)・ガガブタ(写真右)(環境省レッドリストではともに準絶滅危惧、富山県レッドデータブックではともに絶滅危惧Ⅰ類)が生育していることが知られ、県内ではおそらく最も大規模な生育地である。この大浦大池において令和4年から富山県高岡農林振興センターによるため池整備事業が始まり、堤体部分の取替えを行うことになった。工事期間中(～R7予定)は水が抜かれるため、アサザ・ガガブタの消滅が危惧された。そこで、高岡農林振興センターから相談を受け、協働して両種の現地保全(生息域内保全)を行うことになった。</p>  <p>工事は堤体部分のみなので、工事区域外で、アサザ・ガガブタが生育している場所(外部から水が流入する谷)に止水板を設置することで、水たまりを作り、両種が生育できる環境を整備した。池の4ヶ所に谷を横切るように止水板を設置した。長さは平均14.4mである。作業には教職員・学生ボランティアの他、地元高校生も参加してくれた。なお、本プロジェクトと並行して、現地での保全がうまくいかなかった場合に備え、大学の温室内の水槽にアサザ・ガガブタ個体を移植して栽培している(生息域外保全)。</p>  			
今後の展開			
<p>希少な水生植物であるアサザ・ガガブタを現地で保全するための最低限の環境(水たまり)は整ったが、水たまりの面積は池全体と比べるとまだまだ小さく、今後さらに拡大する必要がある。また、水湿地環境を作ることでアサザやガガブタだけでなく、他の様々な生き物の生育・存続も期待でき、ため池全体の生物多様性を保全することを目標としていきたい。また、補強など必要な措置を取っていく必要があり、継続的に維持管理していく体制を整える。</p>			